

令和6年度 第3回湧別町ゼロカーボン推進協議会 会議録

開 催 日 時	令和6年12月5日（木） 13時30分 開会 15時10分 閉会
開 催 場 所	上湧別コミュニティセンター 2階大会議室
出 席 委 員 等	刈田・清水・平田・長屋・三橋・奥村・藤本・毛利・北村・三瓶・安達・菅原・今各委員、落合北海道大学特任助教（オブザーバー）
欠 席 委 員 等	小幡委員
事 務 局 職 員	パシフィックコンサルタンツ（株）雨嶋室長・三塚主任（計画策定業務受託者） 企画財政課：齊藤主査、佐藤主査
議 題	1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議題 （1）地球温暖化対策実行計画素案及び地球温暖化対策実行計画概要版素案について 4. その他 （1）次回協議会の開催について 5. 閉会
会 議 の 公 開	公開
傍 聴 人 の 数	0名
提 出 資 料	・資料1：湧別町地球温暖化対策実行計画（素案） ・資料2：湧別町地球温暖化対策実行計画概要版（素案）
会 議 録	☒ 有 （ ☐ 全文筆記 ☒ 要点筆記 ） ☐ 無
そ の 他	

1. 開会 齊藤主査
2. 会長挨拶 刈田町長
3. 議題

(1) 地球温暖化対策実行計画素案及び地球温暖化対策実行計画概要版素案について

パシフィックコンサルタンツ（株）より資料に基づき説明。

落合アドバイザー) 最初にこの実行計画自体がどういう目的というか、どういう位置づけだったかお話しさせていただきます。もう一回繰り返しお話しさせていただきますけれども、ゼロにすることだけが目的ではなくて、町として計画の中でこういう方針でいくと。やっていく中で町が変わっていくとか行動が変わっていくとか、そういうところに目的があって、少しこれまでの計画と少し違う目線で見えていただくのがいいかな、というのがこの計画の特性でございます。概要版の 8 ページ以降のところです。そういったところを意識しながら皆さまがどういうことができるのかというところを考えて実行していく。結果としてゼロカーボンに向かっていくというようなことだというふうに思います。

刈田町長) 本当に何ができるんだということですよ。何から始めていけばいいのかという。技術的なものとか、お金をかければできるなというのもあるんですけど、なかなか難しいな、という部分がございます。それぞれ感想をお願いします。

委員) 私どもは農協ですので、農業関係ということで見ていくと、この 15 ページの 5 番のスマート農業が当てはまるのかな、というのを今見ていたのですが、現状でもかなりスマート農業という形で取り組みは進んでいると思います。この中にある例えば、ドローンによる農薬の自動散布とか、古くはヘリコプターを使って行っていますが、燃料を使わないで良くなるということなのですが、使った人の感想として直接畑に入っていないので畑の状況を把握できないというようなことが起こっていると思います。どうしてもトラクター等で入って自分の目で物を見てその作物の状況を畑の周りの中で結構違うことがあるので、そういったものをきちんと確認するためには中に入っていかなきゃならないのかな、というふうに思います。

また、作業機械等についても、例えばリフトあたりは農協でも電動のリフトとか使用しました。しかしながら、当時からかなり力が弱くて制約があるというような感じでした。現況でトラクター等も当時 80 馬力、100 馬力ぐらいでやっていたものが、今は 300 馬力を超えるようなものを使って農業を行っている人も結構いるという中で、ちょっとパワー的にどうなのかなというのが気になるかなと、時間をかけていいのであれば力のないものでもいいんですけど

も、やはり、作業機が大きくなってトラクター本体が大きくなるというと、10年15年前の小さい機械の倍のスピードで作業ができるというようなことになるので、そこら辺が解消されたらいいかな、というふうに思います。現状では農業分野については、いろいろなスマート農業については、取り組みはもう既に始まっているというような状態です。

委員) 質問ですが、例えば概要版の6ページ目に現状のままいったら一番左上だと2050年は1%増加しますよ。最大限取り組んでゼロになるようにしようということなんですけど、途中の検証はどのように行うのですか。

雨嶋室長) 今後の進め方については、一番最後のところで皆さんとの連携の体制だとか、定期的にやって確認していきますということを書いているのですが、まさにご指摘いただいたようなことをどうやっていくかっていうのが、多分、今後決めていく重要なところかなと思ってまして、全国の自治体でも計画を策定していますが、毎年きちんとチェックしてそれを修正してるところは多分少なく、何年か経ってから一部できたけどこれはできてないねっていうのを振り返るっていうところが多いと思います。一応目標として定めてるんですけどもそのとおりに進まないところが実際に多いと思います。今後状況が変わって見直すということも必ず出てくると思いますので、そこを毎年どれくらい排出量が削減できたとかチェックするシステムは作る予定ですけども、それを何年ごとに確認して計画を見直すとか、そのことをこれから考えていく必要があるのだろうなということを思っていたところです。排出量を毎年算定したり、どれくらい減ったってわかるようなExcelのシステムはこれから作りますが、それはツールでして、それを毎年どういう人たちでチェックして、どのように修正していくような体制をどうするかとか、それはこれから決めるべきだと思います。

委員) 今後、世界的にもゼロカーボンという形になってきてますので、町民もそうですし、組合員も今、お金をかけずにという形になってますけど、環境に対してお金をかけていくということの意識づけをしていくことが必要なのかなと思っております。あと、バイオマス発電に取り組んでおりますけど、そういったところに重点を持っていきたい。また、匂いだとか、皆さんに迷惑をかけないように地域環境をよくしていけたらなと思っております。あとは町民一人一人が支えあいと書いていますので、そういったところの意識づけが必要なのかなと思いました。

委員) 漁協なので漁業に関しての話なんですけれども今農協さんからお話があったように、フォークリフトとかを使う機会は漁協もあるんですが、やっぱり電気のものだとパワーが足りないという部分があって、なかなか現状では力を多く必要とする仕事が多いのかな、という部分が多くありますので、今の技術の電動のものはパワーが足りないと思うのが実際のところでございます。

そしてあとは漁に出るので、漁船も大きな力がないとなかなかうまくできないのかな、というところがあり、まして、なかなか電動化というのが現実的な状況ではないのかなと思っております。できることとしては衛生面の管理が必要な場所では電動のリフトを使っていますが、なかなか全体的に見るとまだ省エネに向けた機器を使うというのが難しいのかなと思うところがあります。私たちの会社でできそうなことといえば、職員が使う車をハイブリッドなどに変えていくことができるのかなとは思いますが。

委員) 商工会に勤めていて会員 230 件位いる中でゼロカーボンに向けてどんな取り組みができるか考えていたんですけど、例えば省エネ機器の導入推進だとかはいろんな商業、工業、サービス業、いろんな業種があるのでちょっと一概には言えないんですけど、例えば設備導入したいといったときに省エネ機器を導入することで、経費安くして利益が出るんじゃないという支援はできるのかなと思いました。あとは、昨日も会員さんから相談があったんですけど、ホタテ貝が大量にあるので、これを何とか売上に繋がらないかなという相談とか、そういうちょっとした相談の中から、ゼロカーボンに向けての何か取り組みにつながらないかな、というような考えにできたらいいと思いました。

委員) 昨日ちょっと資料の方を事前に拝見させていただいて、本当にこの町全体でゼロカーボンというのは大きなプロジェクトだなというふうに感じている部分で、いろいろアンケートをまとめていただいて、非常にわかりやすく思っています。それで現実としては、製造業と農林水産業、それから家庭、それから貨物自動車というのが突出してエネルギーの消費が多いという現実があるということと、公共施設や公の施設の消費量が出て町民一人一人がこういったものを捉えてないっていうことがあると思います。ゼロカーボンシティ宣言している中で何やるかっていうときに、取り組みをするための情報不足があるのかなと。アンケートにも皆さん省エネについて何を媒体としているかって見たときに、やっぱりテレビやマスコミだとか SNS ということだと思いますので、まずは湧別町はゼロカーボンシティを宣言してますよっていうことを公に、町民にもアナウンスすることと、あとじゃあ、具体的に個人家庭においてはこういった取り組みをやったらいいですよとか。あとは産業ごとの各分野の中で個別に町の方からこういった取り組みどうでしょうかということで、技術的なこととかお金のこととあってあるかと思いますので、まずは町全体として PR を始めますよという。テレビのコマーシャルに入れても私はいかな、と思いますし、それは町内的にもそうだし、町外的にも湧別町の PR によって全体で進められるのかなと思ったりしてますので、検討したらいいのかなと思いました。

委員) 前回ちょっとお話しさせていただいたのですが、建設業の代表として参加させていただき、その中で再生可能エネルギー導入の方向性という形の中で、

建設業と運輸の 2 つに関わるかなと考えているんですけど、その中で脱炭素型の建設機械というのはもう私たちがどうのこうの言うより、メーカーでいろんなことをやっていますし、それを元の車の廃ガス規制によって、何年までにはこれまで切り替えなきゃダメだという形にしていけないといつまでも古い機械を使っていて CO2 の排出が多いというような形にはなってきますので、そういう形になっていければ、どうしてもそれを使わないと公共工事には参入できないということもありますから、それをやっているような状態で、あとはもうメーカーさん頼みという形になっているような状態であります。あとは運輸のほうですけれどもこれ、EV 等の脱炭素の車両の導入推進という形なので、これは小さい排気量の車では全然問題ないと思うんですけど、私どものようなダンプトラックだとか、20 トンになるとまだまだテスラも全然作れないような状態になりますし、これが何年先になるかというのは未だにわからないような状態で言ってますし、最近はそれを見ながら、EV にしようか、それともハイブリッドにしようかっていう自社の車も含めてそうなんですけど、それを考えながら今やってる状態なもんですから、私たちが何をやっていかということなんですけども、それはそれぞれの立場とか会社内容とかっていう形でいろいろやっていってはいらるんですけど、はっきりこうだよって分かってるんですけどしたらどうしますよってことが私自体が理解できないとちょっとまだ進めないと思っています。

委員) 今お話しあったように僕自体ゼロカーボンと敵対するような燃料販売とかやっている ので、ゼロカーボンと言われると俺の職業なくなっちゃうなみたいな販売するものないぞみたいな感じなんですけど、ただ森林を増やしたりして、その辺でプラスマイナスというかゼロとかそういうもので相殺させていけばいいのかなと思うんですけど。ただやっぱり以前、エコキュートへの切り替えに役場のほうから行政とか国のほうから補助金が出てたりとかあったので、やっぱりその辺は補助金とかもきちんと充実してもらったりとして、できるだけ二酸化炭素の排出を少なくするような設備に変えるとか、現実的に今オール電化住宅、特に一時期流行った蓄熱式のストーブを使っているところは灯油のストーブに切り替えが進んでいます。北電さん言わく、原発が稼働したら安くなるよという話をしているんですけど、皆さん一概に、原発稼働してもそんなに劇的には安くならないだろうと。また燃料も国の補助金が今月と来月でだいぶ削られていくというか、補助金率が少なくなっていくって、経費もだんだん上がっていくので、皆さんそれに向けて個人的には多分ゼロカーボンとは関係なく、家庭の出費を考えながらというような感じだとは思いますが、いずれにしても何をするにしてもゼロカーボンに向けていくというか、補助金とかそういう手厚いものがないと、個人的にそういうものを導入するにあたっては結構な出費というか、金額的にも多くなるだろうし、大変

ではないか、なとは思うような感じです。できるだけそういうものを抑えるような器具に買い替えとかなってというのがいいと思いますし、あとうちの業界で水素発電とかガス発電を家庭向けにそれをどうやって普及させておこうかっていう動きも出てますので、2030 とか 50 年とかって言うんですけど、まだまだ発展途上というか、その技術的にもまだきちんとしたものが出てきてない状態なので、それを見ながらこれから対応していきたいと思います。

委員) 地域住民皆さんも高齢化が非常に早く進んでおりまして、おそらくゼロカーボン推進のことを説明してもなかなか難しいのかな、というような気はいたしますけれども、今まで 10 年前ぐらいからまず防犯等を LED 化しようというそういう活動をしておりましてほぼ 100 パーセントには達していない現状ですけれども、屯市自治会は、10 年前ぐらいに 160 灯の防犯灯を LED 化することによって金額ですけども、130 万の支払いがあったものが 40 万程度まで下がったと、この辺に関してはいくらか協力してるかなという気はしておりますけれども、今後の自治会連合会の活動といたしましては、3 月の頭のほうに自治会連合会主催のコミュニティ研修会というのがありまして、地域住民 100 人以上が出席をしていただいている研修会があるので、担当課の返答次第ですけども、ぜひ今年はこの議題をもって開催してはどうかな、というような気はしておりますし、地域住民も関心を持っている人がいるよ、という話がありましたので、少し前向きに考えたいと思います。

委員) 戦後植林されてきた木材を利用する時期に入っておりまして日本っていうのは、木材を非常に使われる国であることは皆さんも承知のことだと思います。最近 J クレジットの情報があり、森林組合や役場にもそういう話が増えてきていると聞いております。今、現状 50 年、60 年たった森林が利用される時期になって、木材もある程度年数経つと二酸化炭素を吸収する量が乏しくなってくると、木材を有効利用していただくため、と先ほど 11 ページにも書いてあるのですが、特にこのエリアは非常に森林資源に恵まれており人工林資源、天然林資源を伐採して利用される量もたくさんありますが、それに代わって空いた山林面積に対して植林をしまして、更新を促していく。利用されなくなった荒廃農地とかそういうところもたくさん出てきてますので、そういうところも植林をして吸収量の多い資源をどんどん増やしていったら、今後利用された木材が一過性で森林資源がなくなってしまうという、よく世界で相当な量の主伐をされているっていうことは皆さん何度も聞いてはいると思いますが、特にこのエリアは補助金制度を利用させていただいた中、所有者さんにご理解いただきまして、植林に協力していただけてます。今、紋別の港のほうにも一部石炭燃料を炊いて木質チップを炊いて発電事業を行っておりますし、網走市の能取漁港には本州資本の木質の発電設備、ゆくゆくは北見方面にも、その木質の発電設備ができる状況が情報で出てますので、木材をどんどん

燃やすのかって言われると、ちょっとなんとも言えないですけど、できる限り利用されない木材を有効利用し、空いた面積に対して植林ができれば、できる限りの森林の面積の維持ができて、回転のいい吸収ができるんじゃないかなと思っております。

委員) 電力の業界にいますので、その辺についてのお手伝いというか、ご相談というのはさせていただけるかなと思っておりまして、ご承知のとおり、この中にも出てきますマイクログリッドですとか、あと太陽光の接続ですとか、そういったものは増えてますし、事例も出てきておりますので、そういったものも含めてご検討を進めていく中ではご相談なり、ご協力はさせていただけると思っております。あと、電力業界も全国的にも当然、ゼロカーボンの取り扱いというか対策も進めているところですので、いろいろ計画が出てきたり、制度なり、ルールなり、というのも変わっていくところもありますので、そういったものも踏まえながら、ご相談いただいたり、ということもできるかな、とちょっと思っておりました。お届けする電気の発電、どんな発電で作られた電気をお届けしているかというのも、随分昔と変わっているんじゃないかなと思っておりますので、そういったものを情報提供などできるものはさせていただきながら、というふうに思っておりました。

委員) 弊社は運輸と建設業、産業廃棄物業をやっており運輸業に関しては先ほども話しが出た通りなかなかハイブリッドというのが進んでいない状況で、それも大型車が多いのでなかなか力がないということで進んでいないという現状と、社用車もなるべくハイブリッドがいいんじゃないかという話もあるんですけども、充電をする施設を建てるってなると、また費用がかかるから、その分で費用対効果はどうなのかなっていうところで今ちょっと話が止まっているような状態です。あと、建設業に関しては重機のほうはハイブリッドのバックホー等だいぶ進んで入ってきていますし、先ほどお話があったように、メーカーのほうが基準としてそれが標準装備になってきているというのも今のこの状況なのかなというところです。産業廃棄物業に関しても、なるべくリサイクル、埋め立てをしないようにはしているんですけども、その際はやっぱり破碎をしてコンクリートだったら破碎をして路盤材として出したりとか、木くずも破碎をしてチップで燃料の原料として出しているんですけど、破碎する際はやっぱり軽油を使っているんで、その部分でも力の問題でなかなかそういう機械自体がないんですけども、そういうハイブリッドっていうのはなかなか厳しいのかなっていう部分があります。あとちょっと最近ですね、エコアクション21っていうのを取得してまして、本州の会社からCO2排出量を可視化できますよっていう話があるんですけど、本当に可視化ってできるんですか。

落合アドバイザー) ありますね。それを仕事にされてる会社が最近多くなっ

てここ 3 年ぐらいですかね。国のほうでもそういう会社に補助を出すようになってかなり信頼性は大分上がってきたと思いますけど。

委員) あるのですね。電気量とか水道量をデータを送ってあげれば、向こうのほうで勝手にデータを作って、これだけ排出しますよっていうふうにできますよっていう話をされるんですけど、ちょっと怪しいなと思って、ちょっと控えているんですけど、国もバックアップしているなら大丈夫かな、というところが分かりました

委員) 家庭部門から言うと、ちょっと知人とか友人とかにゼロカーボンを知ってますかと聞いたら知らない人が多いです。そこからかもと思って、最近はお村さんが言っていた通り、SNS とか使って PR して始めているという形と、あとやっぱり家庭は節電とか節約、お金のやりくりで結構節約している人もいると思うんで、そこに紐づけたらどうかと、データでこのくらい節約したらこのくらい貢献してますみたいなことができたと思います。

刈田町長) この賦存量ってありますよね。太陽光だとか、陸上風力だとか賦存量ってこれでいくと、風力発電が一番、うちの町でポテンシャルがあるとなっているんですけど、基本的には風力発電、陸上風力が撤退していくのですけれども、それでもポテンシャルというふうな表現になっていくのかどうかっていうと、地中熱は全部をやればあるんでしょうけど、太陽熱とかそういう部分っていうのが、これがこういうふうにされると太陽光でなかったり、陸上風力やればいだろうというふうに言われるとなかなか厳しいものがあるなというふうに思います。それと概要版で出てますよね。いろいろな太陽光にしても何にするにしても、地域電力として地域で使おうとか新しい太陽光を導入するにしてもその電気はどうするんだ、という話になってくるんで具体的に何をしましょうっていう話になると、当然蓄電池の話だとかマイクログリッドの話が出て、地域内電力として使うっていうことに進めていかないと、なかなか難しいのかなと。ましてや、今も電力を売買してもうかるような時代でもなくなってきましたので、地域内での活用という部分としてはバイオマス等で電力を出しますけども、それも地域内で使われてますよっていうような、そういう実際は電力に色ついてないんで、どこ行ってるか分かんないんですけどもその部分がこの地域で使われてますっていうような形を見せていかないと、なかなか地域内でこれを進めていくのが難しいのかな、というふうに思っているのと、あと具体的に何をやれば何が減りますから、皆さん頑張りましょうっていうのが見えないと理想だけでいくと、この計画をいきなり表に出したら我々が答えられるまでの能力があるのかというふうになってくるのかな、と思ってございますので、その辺ちょっと教えていただければと思います。

雨嶋室長) 初めのポテンシャルの話ですね。あくまでこのポテンシャルというのは、そこにそれだけの発電する能力のある風が吹いてますよ、という量を示し

ているだけですので、それを使えるか使えないかっていうのは別の話なんですよね。ポテンシャルはたくさんでも、それが使えないと利用可能量って言われるものは少ないと、ただ利用しようと思ってもやっぱり景観とか、あるいは自然環境の話で反対されて導入できないと使えないということになるので、ポテンシャルはあくまでも可能性がこれだけあるものだというふうにちょっとご理解いただいたほうがいいのかなと思います。風力以外の太陽熱とか地中熱というのはおそらくそういうふうな問題は起こらないのかなと思いますので、利用に際しては、比較的環境への影響というのはそんなに負荷が少なく、小規模から使えるものではないかな、というふうに思います。あと、発電した電力を北電ネットワークさんとかの系統に流して売電するというのが、はじめに再生可能エネルギーが広まった固定価格買取という仕組みですけれども、今ではゼロカーボンシティ宣言をされて、それをいかに地域で、自分たちで使っていくかという仕組みを構築していこうという動きが広がっています。そのためには、町長が言われたように、例えばこれからFITの買取期限が切れるような電源を蓄電池で自分たちで使うということができれば、町内で再生可能エネルギーを使ってCO₂を削減するという仕組みができると思います。また、大型のバイオマス発電みたいなところの電気というのはそのままネットワークさんとかの系統に流れると町長が言われたように色がついてないですし、町内で二酸化炭素を削減しましたって形にはならないんですけれども、本編の10ページのほうにあるように、バイオマス産業都市構想のほうの計画で、今新しいバイオマスプラント来年に向けて工事されているかと思うんですけれども、そこの理念にあるような形でこの湧別版シュタットベルケ地域電力会社というものがうまく立ち上げるように、そこで地域のために電気を使うという仕組みができますので、その場合は削減につながるということになるのかなと思います。

落合アドバイザー) 今の流れの中で自分たちで使うと、自分たちの資源は自分たちで使う、太陽光だったり、木質で作ってもいいんですけれどもその一つの方法として、蓄電池というのは非常に今後やってくべきことかな、できることかなというふうに思っております。特に私の理解では、確かに湧別町は太陽光パネルを結構入れた時期があったとお伺いしていますので、それが今、FIT売電で金額もかなり下がってきているので先を考えると蓄電池というものも一つのアイデア、地域で使うこととして入れていく意味では比較的、皆さんも手近なところで見えるところでできることなのかなというふうには思っているところです。いずれにしろ、そういった蓄電池にしろ、マイクログリッド化にしろ、いろんなことをするにあたっては、先ほど皆さんの中でお話があったとおり、補助金の話ですね。その辺の話が非常に大事になってきますので、それを湧別町でできちんと取っていくというような姿勢というのも出すべきなのかなと

いうふうには思っています。それに対して皆さんも感度を上げていただいて、こういう方針があるからちょっとチャレンジしてみようとか、あとは信金がいronなメニューをお持ちだと思うんです。個人向けもそうだし、企業向けのメニューもいっぱいあると思うんですよ。その辺の情報を例えば町のほうで計画作って、せっかくこういう皆さん、仲間でお話をしているので、この流れで町にこういうのがありますよっていうのを情報提供して、それを町がみんなにPRしていったら、それを使う人が増えていったら、横を見てそこやってるね、じゃあうちもやろうっていう感じで、少しずつ思想だけじゃなくて実効性が上がっていくっていうのが一つの方法なのかなというふうに思っているところでございます。

刈田町長) どう進めればいいのかというのが非常に頭の痛い部分で、もともとバイオマスプラントは電気で稼ごうと思って始まった話じゃなくて、家畜糞尿をどう処理しようかっていうことで始まった話なんで、それに電気がついてきてるという電気は難しく無くなってしまうものですね。時間が経てば。貯蓄できれば一番いいんでしょうけど、合併してすぐ太陽光パネルの設置を進めたのが平成21年ですから、それから5年間、家庭用のパネルの設置について補助金を出しておりました。太陽光の電気の買い取りは当時からいくと、当時40何円だったやつが今だったら15~16円今しか買っていないんで、それに対して蓄電池の助成をして自家消費をしていただいた方がいいのか。基本的に昼間っていうのはあんまり使わないわけですよ。発電はするけど、使うのは夜が多いっていう部分があるので、そういうことで少しでもゼロカーボンに向けていけばいいのかな、と考えてはいるんですけど、そこら辺の具体的なプランっていうんですか、何を進めていけばいいのか。大体町の街灯はもうLED化されてきてるし、公共施設も大体LED化してきてるという部分がありますので、できることはどんどん進めてはきてるんですけど、2030年までにできそうなものとか、町から助成するとか国から何かもらえるのかというのも、何かあれば、また違うのかな、と思っては聞いていますので、そこら辺の部分もこういうのに具体的な部分っていうか。来年作ったときとは5年か6年かにできる範囲の今ある技術の中でできる部分。今年EVの車2台入れましたって、災害時にも使えるというようなこともなってますし、そういうことも少しずつ進めてきてるというふうにもあって、この5年でできそうなもののリストアップしていただいたり、計画に乗せるというのはどんなものかな、と気がするんですけど。

雨嶋室長) まず蓄電池を活用して町内に使っていくというのは、非常にタイミング的にもすぐできる重要な施策かなと思いますので、今記載しております重要施策重点プロジェクトのところの一つ追加で、ぜひ加えさせていただければな、というふうに思います。あと、LED化も含めて、個人ができるような

行動を入れる。概要版 11 ページのところに、例えば適切な室温設定だとか、エコドライブだとどれぐらい減りますというのを入れてはいるんですけども、ここに室温を一度下げてどれぐらいだとかエコドライブだと、具体的にこういうことをしたら、これぐらい減りますよ、というのを自分ごと化できるようなプラスアルファの説明が入ればいいのかと思います。あと、これ以外にも、もしプラスアルファできるものがあれば、ご自分で進めていただけるような目安になるようなものをもう少し追加できればいいのかなと思っております。

落合アドバイザー) 今日皆さまから一言ずついただいた中にも出てたんですけども、今できることと言いながらも少し先の話をしてしまうんですが、農業分野、漁業分野、そして建設分野の皆さんの、基本的には重機ですよね。重機とか運送もそうですけれども、そういったものの電化っていうのはまだまだ進んでないというのを皆さんも言うとおっしゃるとおりで、馬力の問題が特にありますけれども、進んでいないというのは現状です。他の自治体でもいろいろ話をさせてもらったり聞いたりしてるんですけども、やはり、そのところを全て電力にシナギゃいけないのかと、全部オール電化じゃないですから、EV にシナギゃいけないのかっていったらそうではないと私は思ってますし、やはり、産業を止めてまでやる話ではないので、だとすれば今できることって何かっていうと皆さまも言っていましたけど、できてハイブリッドだろうとか、技術が追いつけばそっちのものに変えるにしても、今よりも省エネになるものに変えていく、ということを徹底する、というのがまず一つあるかな、というふうに思います。最終究極的には、EV が本当に究極的なのかとは、私は思ってなくて、EV じゃなくて、ガソリンを使いながらのハイブリッドのほうが現実的なんじゃないかと私は思っているが、そういう意味でも湧別町という環境の中でどの選択が一番産業と環境とのバランスとしていいのかっていう意味で少しずつ合うものを選んでいくという姿勢を取ったほうがいいと思います。だから、今できることというのはそういったことを考えること。その前段として、もっと目の前にできることはやられてると思いますけれども、今例えば A という車両は何年後に変えなきゃいけない、もしくは何年後には使えなくなる、そういった計画を作っていったって、何年後だったらこれがこっちに変わるんじゃないかっていうような試算だけでもしておいていただくっていうのが、まず準備としていいんじゃないかな、というふうに思います。そのときにすごく環境性能のいいものが出てれば買えばいいし、そのときの価格の問題もありますよね。価格がそこまで見合わないなっていうじゃあ、ちょっと今回は見送ろうか、でもそれでもいいと思うんです。とにかくそういう点で変えていくんだという意識の中で準備をするということができるとかな、というふうには思っております。自治会のお話もありましたLEDに変

えるとか、今の技術でできていること、それと断熱構造のいい方に替えるだとかそういったものが基本になると思います。その先に新しい技術ができれば入れてもいい。入れてたらどうかなっていうことの計画を少し皆さまが作っていただくのが、まずやれることだというふうに思っております。いきなり入れるとなるとお金の問題になってくると思います。そういったものとまだ先を見て計画すべきだという点、それがまず始めることとしては結構できたのかな、というふうには思っております。

刈田町長) いきなり 2050 年にはならないんで、2030 年でさえ 47 パーセントどうやって削減するんだっていうのがあって、そういうことも含めてやっていったらいいのかなと。僕が今いろいろな中で迷ったと、自分で作った電気を自分で使うっていうのが一番いいのかなと思っているんです。今、小規模でいくと、そこに地域制でマイクログリッドなりに作って余った電力はみんなで使いましようっていうようなことでいければそれが広がっていく。地域内電力が地域で使えるっていうことになっていくんだろうなと思うんですけど。マイクログリッドと地域電力会社の話がさっきも出てますけど、地域電力会社なかなか難しいんですね、なかなか簡単にはいかない部分もあって全ての電線が北電さんのものですんでなかなか貸してくれないっていう部分があって 1 キロ 1 億かかるんですよ。作ると、そこでいつも悩んでるんで。

委員) 町内で作った発電の量と町内で使われている電気の量の比較、マイクログリッドを必ず構成したものしか町内の発電を使ったことにならないとか、そういう決めがあったりするんですかね。例えば町で発電した量はこれだけです。町で使われた電気はこれだけです。プラスマイナスで発電が上回っていればいいという感じでもない。

雨嶋室長) 計画策定上の考え方とかっていうのは、環境省のマニュアルで一応決められてまして、再生可能エネルギーで発電しても普通に系統に流して売電した時点で地域で使った削減量には一応カウントできないというふうにはなっております。その時点でやっぱり系統の電力として一緒になっちゃうという形です。

刈田町長) 地域電力をかませばいいんでしたっけ。

雨嶋室長) そうです。

落合アドバイザー) 湧別版シュタットベルケというのを載せたときに地域電力会社というのを立ち上げるには、一つの電力に関して考えるという意味ではいいのかな、というふうに思っておりますが、なかなかこれ立ち上げるのはかなりハードルが高い。うまくいってる例っていうと、上士幌ぐらいしか思いつかないなと。地域のものは、地域で使うんだというような考えは非常に大事だと思ってます。私もう一つ言いたいのは、さっきご指摘いただいたとき、仕事を無くす気かというお話をされたと思うんですけども、でも実は他の町で

も同じこと言われたんですよ。私が脱炭素関連の話をしたときにいいんだけどわかるんだけど、それやられると私の食い扶持なくなるねっていうのは確かにそのとおりになる。例えばそのときにこういった地域新電力とかと一緒に絡んでいただく、エネルギーや供給会社さんも一緒に絡んでいただいて、仲間として動かすとかですね。これやったから、片方が損してしまうような形にならないようになるべく一緒にできるような仕組みに持っていけないかなと思ってますし、そうなるべきだとは思ってます。ちょっと電力寄りの話ばかりなんですけど、そうではなくてメタンガスもそうですし、そのまま使うっていう手間はあるわけで、あと熱というものも大事な資源だと考えてみると、それこそ今すぐの話じゃないんですけれども、熱とか蓄熱の話とかって、まだまだ発展途上であったりするので、将来的に熱を移動させるとか、熱を使うんだっていうことも踏まえて、電気だけじゃなくてガス、メタンガスとして使うっていう考えもあるだろうし、熱をどう使うとかですね。そういったふうに地域の資源を電気以外のものまでちょっと頭に広げて、工場とかの場合って熱をロスしてるところが結構あったりするので、そういったところの熱を何かに使えないかみたいなことを少し、例えばこういうところで相談するとか町に相談するとかでもいいですし、そういうことでこの熱はこっちに使えるんじゃないかみたいなことを将来的には考えてもいいし、そういうことで、電気だけに限らず、地域の資源として物事を見ていただければなというふうに思っています。メタンなんていうのは特に電気にするためじゃなくて、重機ですね。農業機械も最近、メタンで動かす重機っていうのがヨーロッパのほうでも販売されるようになってきてますので、そういったところもそれが本当にいいかどうかは金額が目立ってくるのでどうか考えなきゃいけないんですけれども、そういった電気以外にも、メタンとか他のガスも視野に入れながら、そのときに合ったものを入れられるようにしていく、というのがいい形なんじゃないかな、というふうに思っています。

委員) 定かではないですが、ガスを作って、それを供給するようなシステムとか何かをやってませんか。

落合アドバイザー) 鹿追で 2 個チャレンジしていることがあるので、一つは水素にして地域の輸送。あそこのフォークリフトと水素のミライに供給して使っている、というのが一つ。もう一個は液化ですね。メタンの液化をして、それを液化天然ガスとして供給しているものの、代わりに少し入れていくという試験をし、液化することと、それを使うことということを検討しているというところです。ですので、そういった液化メタンとかメタンガスみたいなものを熱に変えちゃうと、効率悪く、熱とか電気に変えるとちょっと効率が悪いんですね。そういったできれば効率よくということで、そういったガスは出すのも、もしくは液化して効率上げて使うとかっていう検討はしているようです。

委員)将来的にLPガスでなくそういうものも出てくるのかな、と思っていると。

そこで作ったメタンガスを燃料にするというのが可能なのかなと。

落合アドバイザー)そうですね。どうも皆さんバイオガスプラント、メタンを作る方法って一番この湧別町さんで有力なのはやっぱり家畜、糞業とかだと思いますので、そこでできたメタンを生成するところ担っていただくとか、そうやって、運ぶところまでいくとか、もしくは生成するのもあればプラントでやって、そこから輸送とかそういうところは従来の皆さんでやっていただくといういろんな形が見える。つまり、これを機にビジネスの形が変わるとか、そういった産業の物流が変わるっていうのが非常に意味があることだと思いますので、そういった視点で見ていただいて、捉えていただければと思います。

刈田町長)他に発言ないでしょうか、よろしいですか。

落合アドバイザー)おそらくこの計画が基本的に皆さんこれでいいかな、というふうになって、多分、これからはこれをベース、ちょっとブラッシュアップした形で出来上がるようなイメージだと思います。他の自治体でも話してはいるんですけども、こういう計画って先ほど町長おっしゃったように先って長い話なのでできればこれは定期的に更新とか、今現状に合わせた計画にちょっとずつ変えていくとかしたほうがいいんじゃないかな、と私は思っております。それはむしろ皆さん今もそうですけど、町の皆さんに言うこととかかもしれないですけど、そういった意味でこれでもう終わりなんだということではない、というような提案を最後にさせていただきます。

刈田町長)これで終わられたら、うちの方も流れが終わってしまう気がしますので、よりそれを進めるための予算化の部分もそうですし、国に対する要望もそうですけれども、進めていかないといけないかなと思っております。それでは今日の議案として終わらせていただきます。

4. その他

(1) 次回協議会の開催について

令和7年1月中旬を予定